

飲酒と運転に関する調査 結果報告書



中山寿一、樋口進
神奈川県警察交通総務課

&

独立行政法人国立病院機構
久里浜アルコール症センター

平成20年8月

飲酒と運転に関する調査 結果報告書

中山寿一¹⁾、樋口進¹⁾

神奈川県警察本部交通部交通総務課

¹⁾独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター

平成 20 年 8 月作成

．研究目的

飲酒運転による事故は重大な事故につながりやすい。また、運転者が飲酒していなければ事故は防げた可能性が高く、その有効な対策が強く望まれるところである。周知のとおりここ数年、道路交通法の改正が連続的に行われ、飲酒運転に対する厳罰化が進んでいる。しかしこのような状況においても飲酒運転を続ける一群の人々が存在する。緒外国のデータからこの一群にはアルコール依存傾向を有する者が数多く存在することが示唆されている。もしわが国でも同様の傾向があるなら、厳罰化に加えて治療介入が有効な手段となるだろう。しかしこの点に関するデータは現在のところ本邦では皆無に等しいため、今回本研究を行った。

．研究方法

1) 調査対象者

神奈川県警が実施している運転免許取消処分者講習受講者。

2) 調査期間

平成 19 年 1 月より平成 19 年度末まで。

3) 調査方法

2 日間の講習の最後に、担当警察官の説明のもと本人の自由意思により調査を実施した。調査票は自記式で A4 サイズ 8 ページからなる。内容は、社会的背景、運転状況、飲酒運転や検挙の経験、飲酒運転の理由、飲酒状況、アルコールの分解に関する質問等に加えて 3 種類のアルコール依存症スクリーニングテスト (AUDIT、CAGE、KAST) が含まれている。解析には統計解析ソフト SPSS を使用した。なお、本研究は久里浜アルコール症センター倫理審査委員会の承認を得て行っている。

．結果

全部で 1396 名 (男性 1307 名、女性 68 名、性別不明 21 名) から回答を得た。男女別の年齢および標準偏差は、男性 36.7 ± 11.8 歳、女性 36.4 ± 12.2 歳であった。

飲酒運転の経験者は、男性 70.0%、女性 51.5%であった。また、飲酒運転による検挙 (以下検挙) の経験は男性 39.2%、女性 30.3% であった。

飲酒運転の有無および検挙の有無により、下記の 3 群に分類した。

飲酒運転あり + 検挙あり

飲酒運転あり + 検挙なし

飲酒運転なし

1) 社会的背景

各群、男女別に対象者の社会的背景を表1、表2に示す。なお女性については母数が少ないため、²検定を行わなかった。男性においては、²検定により統計学的に有意に下記の傾向がみられた。

a) 年代について

- ・「飲酒運転あり+検挙あり」の群は、40代と50代が多く、10代と20代が少なかった。
- ・「飲酒運転あり+検挙なし」の群は、20代が多く、40代と50代が少なかった。
- ・「飲酒運転なし」の群は、10代が多く、50代が少なかった。

b) 同居人の有無について

各群において有意差はみられなかった。

c) 職業について

- ・「飲酒運転あり+検挙あり」の群は、自営が多かった。
- ・「飲酒運転あり+検挙なし」の群は、会社員・公務員（正職員）が多かった。
- ・「飲酒運転なし」の群は、学生・家事専業・無職が多く、自営が少なかった。

2) 運転状況

各群、男女別に対象者の運転状況を表3、表4に示す。なお女性については母数が少ないため、²検定を行わなかった。男性においては、²検定により統計学的に有意に下記の傾向がみられた。

a) 1か月あたりの運転頻度について

- ・「飲酒運転あり+検挙なし」の群は、20日以上が多く、0~9日が少なかった。
- ・「飲酒運転なし」の群は、0~9日と10~19日が多く、20日以上が少なかった。

b) 運転目的について

- ・「飲酒運転あり+検挙あり」の群は、業務（輸送以外）が多く、上記以外が少なかった。
- ・「飲酒運転なし」の群は、上記以外が多く、業務（輸送以外）が少なかった。

c) 1か月あたりの平均走行距離について

各群において有意差はみられなかった。

3) 飲酒状況

各群、男女別に対象者の飲酒状況を表5、表6に示す。なお女性については母数が少ないため、²検定を行わなかった。男性においては、²検定により統計学的に有意に下記の傾向がみられた。

- ・1か月あたりの平均飲酒日数、飲酒日の1日平均飲酒量、1日平均飲酒量、最大飲酒日の1日飲酒量のすべてにおいて、「飲酒運転あり+検挙あり」群>「飲酒運転あり+検挙なし」群>「飲酒運転なし」群の順であった。

表 1 . 調査対象者の社会的背景 (男性)

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	² 検定
総数 (人)		502	393	384	
年齢	総数	(人) 501	393	383	
	平均年齢	(歳) 39.9 ± 11.1	34.1 ± 11.1	34.7 ± 11.9	
	10 歳代	(%) 1 (0.2)	13 (3.3)	23 (6.0)	² =99.0
	20 歳代	(%) 94 (18.8)	155 (39.4)	126 (32.9)	自由度=10
	30 歳代	(%) 189 (37.7)	130 (33.1)	135 (35.2)	P<0.001
	40 歳代	(%) 107 (21.4)	49 (12.5)	52 (13.6)	
	50 歳代	(%) 83 (16.6)	30 (7.6)	27 (7.0)	
	60 歳以上	(%) 27 (5.4)	16 (4.1)	20 (5.2)	
同居人の有無	総数	(人) 502	393	380	² =5.2
	あり	(%) 378 (75.3)	289 (73.5)	305 (80.3)	自由度=2
	なし	(%) 124 (24.7)	104 (26.5)	75 (19.7)	P=0.073
職業	総数	(人) 499	392	383	
	自営	(%) 152 (30.5)	86 (21.9)	79 (20.6)	² =21.9
	会社員・公務員(正職員)	(%) 258 (51.7)	232 (59.2)	209 (54.6)	自由度=6
	会社員・公務員(派遣・パート)(%)	44 (8.8)	44 (11.2)	43 (11.2)	P=0.001
	学生・家事専業・無職	(%) 45 (9.0)	30 (7.7)	52 (13.6)	

表 2 . 調査対象者の社会的背景 (女性)

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし
総数 (人)		20	14	32
年齢	総数	(人) 20	14	31
	平均年齢	(歳) 34.4 ± 8.2	34.1 ± 11.3	37.5 ± 13.9
	10 歳代	(%) 1 (5.0)	2 (14.3)	0
	20 歳代	(%) 5 (25.0)	3 (21.4)	11 (35.5)
	30 歳代	(%) 10 (50.0)	5 (35.7)	8 (25.8)
	40 歳代	(%) 3 (15.0)	3 (21.4)	7 (22.6)
	50 歳代	(%) 1 (5.0)	1 (7.1)	2 (6.5)
	60 歳以上	(%) 0	0	3 (9.7)
同居人の有無	総数	(人) 20	13	32
	あり	(%) 18 (90.0)	12 (92.3)	27 (84.4)
	なし	(%) 2 (10.0)	1 (7.7)	5 (15.6)
職業	総数	(人) 20	14	31
	自営	(%) 1 (5.0)	2 (14.3)	4 (12.9)
	会社員・公務員(正職員)	(%) 5 (25.0)	3 (21.4)	12 (38.7)
	会社員・公務員(派遣・パート)	(%) 6 (30.0)	6 (42.9)	8 (25.8)
	学生・家事専業・無職	(%) 8 (40.0)	3 (21.4)	7 (22.6)

表3 . 調査対象者の運転状況 (男性)

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	² 検定
総数 (人)		502	393	384	
1 ヶ月あたりの運転頻度	総数 (人)	492	386	380	
	0 ~ 9 日 (%)	41 (8.3)	23 (6.0)	47 (12.4)	² =22.7
	10 ~ 19 日 (%)	37 (7.5)	28 (7.3)	50 (13.2)	自由度=4
	20 日以上 (%)	414 (84.1)	335 (86.8)	283 (74.5)	P<0.001
運転目的	総数 (人)	416	329	316	
	通勤・通学 (%)	178 (42.8)	159 (48.3)	142 (44.9)	² =17.6
	輸送業務 (%)	37 (8.9)	34 (10.3)	31 (9.8)	自由度=6
	業務(輸送以外) (%)	148 (35.6)	88 (26.7)	78 (24.7)	P=0.007
	上記以外 (%)	53 (12.7)	48 (14.6)	65 (20.6)	
1 ヶ月あたりの平均走行距離	総数 (人)	495	379	370	
	50km. 未満 (%)	58 (11.7)	43 (11.3)	47 (12.7)	² =5.46
	50 ~ 299km. (%)	150 (30.3)	105 (27.7)	98 (26.5)	自由度=8
	300 ~ 999km. (%)	134 (27.1)	94 (24.8)	110 (29.7)	P=0.71
	1000 ~ 2999km (%)	117 (23.6)	105 (27.7)	86 (23.2)	
	3000km. 以上 (%)	36 (7.3)	32 (8.4)	29 (7.8)	

表4 . 調査対象者の運転状況（女性）

			飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし
総数（人）			20	14	32
1ヵ月あたりの運転頻度	総数	（人）	19	14	31
	0～9日	（％）	1（5.3）	1（7.1）	6（19.4）
	10～19日	（％）	3（15.8）	1（7.1）	6（19.4）
	20日以上	（％）	15（78.9）	12（85.7）	19（61.3）
運転目的	総数	（人）	15	9	26
	通勤・通学	（％）	7（46.7）	4（44.4）	13（50.0）
	輸送業務	（％）	1（6.7）	0	1（3.8）
	業務（輸送以外）	（％）	1（6.7）	2（22.2）	5（19.2）
	上記以外	（％）	6（40.0）	3（33.3）	7（26.9）
1ヵ月あたりの平均走行距離	総数	（人）	18	13	31
	50km.未満	（％）	5（27.8）	3（23.1）	8（25.8）
	50～299km.	（％）	6（33.3）	6（46.2）	17（54.8）
	300～999km.	（％）	5（27.8）	0	3（9.7）
	1000～2999km.	（％）	1（5.6）	1（7.7）	2（6.5）
	3000km.以上	（％）	1（5.6）	3（23.1）	1（3.2）

表5 . 調査対象者の飲酒状況 (男性)

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	² 検定
1 ヶ月あたりの平均飲酒日数	総数 (人)	494	390	378	
	0 ~ 9 日 (%)	89 (18.0)	167 (42.8)	257 (68.0)	² =226.1
	10 ~ 19 日 (%)	128 (25.9)	79 (20.3)	50 (13.2)	自由度=4
	20 日以上 (%)	277 (56.1)	144 (36.9)	71 (18.8)	P<0.001
飲酒日の1日平均飲酒量	総数 (人)	502	390	383	
	0 ~ 2.0 ドリンク (%)	38 (7.6)	60 (15.4)	201 (52.5)	² =283.2
	2.1 ~ 5.9 ドリンク (%)	131 (26.1)	118 (30.3)	87 (22.7)	自由度=4
	6.0 ドリンク以上 (%)	333 (66.3)	212 (54.4)	95 (24.8)	P<0.001
1 日平均飲酒量	総数 (人)	489	390	379	
	0 ~ 2.0 ドリンク (%)	125 (25.6)	195 (50.0)	295 (77.8)	² =238.2
	2.1 ~ 5.9 ドリンク (%)	179 (36.6)	110 (28.2)	50 (13.2)	自由度=4
	6.0 ドリンク以上 (%)	185 (37.8)	85 (21.8)	34 (9.0)	P<0.001
最大飲酒日の1日飲酒量	総数 (人)	502	393	384	
	0 ~ 9.9 ドリンク (%)	66 (13.1)	85 (21.6)	227 (59.1)	² =244.5
	10.0 ~ 19.9 ドリンク (%)	166 (33.1)	109 (27.7)	78 (20.3)	自由度=4
	20.0 ドリンク以上 (%)	270 (53.8)	199 (50.6)	79 (20.6)	P<0.001

表6 . 調査対象者の飲酒状況（女性）

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし
1ヵ月あたりの平均飲酒日数	総数 (人)	20	14	32
	0～9日 (%)	3 (15.0)	3 (21.4)	23 (71.9)
	10～19日 (%)	8 (40.0)	6 (42.9)	5 (15.6)
	20日以上 (%)	9 (45.0)	5 (35.7)	4 (12.5)
飲酒日の1日平均飲酒量	総数 (人)	20	14	32
	0～2.0ドリンク (%)	3 (15.0)	5 (35.7)	21 (65.6)
	2.1～5.9ドリンク (%)	7 (35.0)	2 (14.3)	3 (9.4)
	6.0ドリンク以上 (%)	10 (50.0)	7 (50.0)	8 (25.0)
1日平均飲酒量	総数 (人)	20	14	32
	0～2.0ドリンク (%)	9 (45.0)	6 (42.9)	26 (81.3)
	2.1～5.9ドリンク (%)	5 (25.0)	4 (28.6)	5 (15.6)
	6.0ドリンク以上 (%)	6 (30.0)	4 (28.6)	1 (3.1)
最大飲酒日の1日飲酒量	総数 (人)	20	14	32
	0～9.9ドリンク (%)	6 (30.0)	5 (35.7)	22 (68.8)
	10.0～19.9ドリンク (%)	6 (30.0)	3 (21.4)	5 (15.6)
	20.0ドリンク以上 (%)	8 (40.0)	6 (42.9)	5 (15.6)

4) 飲酒スクリーニングテスト

各群、男女別に対象者の3種類のアルコール使用障害に関するスクリーニングテスト結果を表7、表8に示す。

AUDIT(Alcohol Use Disorders Identification Test)⁶⁾は、主に、現在の飲酒を続ければ将来、害を及ぼす可能性の高い「危険な飲酒」の同定に主眼を置いた質問紙テストである。各質問項目の回答に付された番号を合計して、得点とする。点数が高いほど飲酒問題が重篤となる。国や人種によってそのcut-off点は異なる。例えば、PHEPA(Primary Health Care European Project on Alcohol)によれば8点以上を「危険な飲酒」とし、20点以上をアルコール依存症の可能性ありとしている¹⁾。しかし、アルコール依存症のcut-off点については報告により様々であるため、本報告書ではAUDITにおけるアルコール依存症のcut-off点を20点と15点との2通り設定し、以下説明する。

今回の調査結果では、AUDITが8点以上の危険な飲酒者は、男性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が84.6%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が60.2%、「飲酒運転なし」群が25.5%であった。一方女性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が66.7%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が61.5%、「飲酒運転なし」群が18.7%であった。ただし、女性においては男性よりもcut-off点が低くなり、5~6点が妥当との報告²⁾もあるため、実際の割合は上記よりも高い可能性がある。

また、AUDITでアルコール依存症が疑われる人の割合は、cut-off点を20点以上とした場合には、男性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が23.8%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が12.4%、「飲酒運転なし」群が3.0%であった。一方女性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が22.2%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が23.1%、「飲酒運転なし」群が6.3%であった。cut-off点を15点以上とした場合には、男性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が47.2%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が25.9%、「飲酒運転なし」群が6.5%であった。一方女性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が38.9%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が23.1%、「飲酒運転なし」群が6.3%であった。

CAGE³⁾⁴⁾、KAST⁷⁾はアルコール依存症のスクリーニングテストである。CAGEは過去のすべての期間に、質問4項目のうち2項目が「はい」であれば、アルコール依存症とする。一方、KASTは調査前6ヵ月間の経験について解答するようになっている。また、KASTの各質問項目には重み付け得点がついており、解答をもとに計算したこの点数が2点以上だと、アルコール依存症とする。ここで注意していただきたいのは、これらのいずれも、スクリーニングテスト上のアルコール依存症である。

CAGEでアルコール依存症が疑われる人(2点以上)の割合は、男性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が36.9%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が18.1%、「飲酒運転なし」群が7.0%であった。一方女性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が45.0%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が35.7%、「飲酒運転なし」群が9.4%であった。

KASTでアルコール依存症が疑われる人(2点以上)の割合は、男性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が39.5%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が20.1%、「飲酒運転なし」群が6.0%であった。一方女性では、「飲酒運転あり+検挙あり」群が36.8%、「飲酒運転あ

り+検拳なし」群が 23.1%、「飲酒運転なし」群が 12.5%であった。

なお女性については母数が少ないため、²検定を行わなかった。男性においては、²検定により統計学的に有意に下記の傾向がみられた。

・AUDIT(8点以上が危険な飲酒の疑い。15点または20点以上がアルコール依存症の疑い) CAGE(2点以上がアルコール依存症の疑い) KAST(2点以上がアルコール依存症の疑い)のすべてにおいて、「飲酒運転あり+検拳あり」群>「飲酒運転あり+検拳なし」群>「飲酒運転なし」群の順で得点が高かった。

5) 飲酒運転の理由

「飲酒運転あり+検拳あり」群と、「飲酒運転あり+検拳なし」群との2群において、飲酒運転をした理由を男女別に比較した。表9、表10に示す。それぞれの理由ごとに²検定を行った。²検定により統計学的に有意に下記の傾向がみられた。

・男性においては、「酔っていないと思った」、「飲酒量が少ないと思った」、「事故をおこさない自信があった」、「今まで捕まったことがないので大丈夫だと思った」、「他の交通手段がなかった」において、「検拳あり」の群は「検拳なし」の群に比べて割合が低かった。

・女性においては、「他の交通手段がなかった」において、「検拳あり」の群は「検拳なし」の群に比べて割合が低かった。

6) 飲酒後に運転してはいけない時間

各群、男女別に、「～を飲んだ時、どの位の時間運転してはいけないと思いますか。」の質問に対する回答結果を表11、表12に示す。項目ごとに1元配置分散分析を行った。

男性においては、飲酒運転がある群は飲酒運転がない群に比べて、統計学的に有意に、飲酒後に運転してはいけない時間を短く答える傾向がみられた。しかし女性においては、各群において統計学的な有意差はみられなかった。

表7．調査対象者の飲酒スクリーニングテスト結果（男性）

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	² 検定
AUDIT	総数 (人)	487	379	372	
	0～7点 (%)	75 (15.4)	151 (39.8)	277 (74.5)	² =330.8
	8～14点 (%)	182 (37.4)	130 (34.3)	71 (19.1)	自由度=6
	15～19点 (%)	114 (23.4)	51 (13.5)	13 (3.5)	P<0.001
	20点以上 (%)	116 (23.8)	47 (12.4)	11 (3.0)	
CAGE	総数 (人)	502	393	384	² =117.7
	1点以下 (%)	317 (63.1)	322 (81.9)	357 (93.0)	自由度=2
	2点以上 (%)	185 (36.9)	71 (18.1)	27 (7.0)	P<0.001
KAST	総数 (人)	494	383	369	² =135.3
	2点未満 (%)	299 (60.5)	306 (79.9)	347 (94.0)	自由度=2
	2点以上 (%)	195 (39.5)	77 (20.1)	22 (6.0)	P<0.001

表8．調査対象者の飲酒スクリーニングテスト結果（女性）

		飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし
AUDIT	総数 (人)	18	13	32
	0～7点 (%)	6 (33.3)	5 (38.5)	26 (81.3)
	8～14点 (%)	5 (27.8)	5 (38.5)	4 (12.5)
	15～19点 (%)	3 (16.7)	0	0
	20点以上 (%)	4 (22.2)	3 (23.1)	2 (6.3)
CAGE	総数 (人)	20	14	32
	1点以下 (%)	11 (55.0)	9 (64.3)	29 (90.6)
	2点以上 (%)	9 (45.0)	5 (35.7)	3 (9.4)
KAST	総数 (人)	19	13	32
	2点未満 (%)	12 (63.2)	10 (76.9)	28 (87.5)
	2点以上 (%)	7 (36.8)	3 (23.1)	4 (12.5)

表9．飲酒運転をした理由（男性）

飲酒運転した理由 （複数回答可）	総数（人）	検挙あり	検挙なし	χ ²	検定 自由度	P
		人数 (%)	人数 (%)			
	502	393				
	酔っていないと思った	124 (24.7)	131 (33.3)	8.1	1	0.005
	飲酒量が少ないと思った	157 (31.3)	150 (38.2)	4.6	1	0.031
	時間がたっているので大丈夫だと思った	188 (37.5)	166 (42.2)	2.1	1	0.146
	いつも運転している場所だから大丈夫だと思った	162 (32.3)	128 (32.6)	0.009	1	0.924
	目的地が近かった	171 (34.1)	153 (38.9)	2.3	1	0.133
	明日（明朝）以降車を使う予定があった	69 (13.7)	72 (18.3)	3.5	1	0.062
	事故をおこさない自信があった	136 (27.1)	144 (36.6)	9.4	1	0.002
	今まで捕まったことがないので大丈夫だと思った	102 (20.3)	111 (28.2)	7.6	1	0.006
	他の交通手段がなかった	88 (17.5)	111 (28.2)	14.6	1	<0.001
	その他	41 (8.2)	29 (7.4)	0.2	1	0.663

表10．飲酒運転した理由（女性）

飲酒運転した理由 （複数回答可）	総数（人）	検挙あり	検挙なし	χ ²	検定 自由度	P
		人数 (%)	人数 (%)			
	20	14				
	酔っていないと思った	8 (40.0)	5 (35.7)	0.06	1	0.8
	飲酒量が少ないと思った	4 (20.0)	6 (42.9)	2.1	1	0.145
	時間がたっているので大丈夫だと思った	8 (40.0)	3 (21.4)	1.3	1	0.223
	いつも運転している場所だから大丈夫だと思った	6 (30.0)	5 (35.7)	0.1	1	0.505
	目的地が近かった	10 (50.0)	3 (21.4)	2.8	1	0.091
	明日（明朝）以降車を使う予定があった	6 (30.0)	2 (14.3)	1.1	1	0.261
	事故をおこさない自信があった	3 (15.0)	1 (7.1)	0.49	1	0.449
	今まで捕まったことがないので大丈夫だと思った	3 (15.0)	1 (7.1)	0.49	1	0.449
	他の交通手段がなかった	2 (10.0)	8 (57.1)	8.8	1	0.005
	その他	3 (15.0)	0	2.3	1	0.191

表 11 . 飲酒後に運転してはいけない時間 (男性)

	時間 ± 標準偏差			1 元配置分散分析
	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	
総数 (人)	496	391	364	
ビール中ビン 1 本 (または日本酒 1 合)	7.2 ± 4.7	7.5 ± 5.4	8.6 ± 6.3	p=0.001
総数 (人)	496	391	361	
ビール中ビン 3 本 (または日本酒 3 合)	11.5 ± 6.6	11.8 ± 7.2	14.2 ± 10.0	p<0.001
総数 (人)	496	389	358	
焼酎 (25 度) 3 合	11.6 ± 6.9	12.1 ± 7.2	15.8 ± 12.7	p<0.001
総数 (人)	497	388	357	
ビール中ビン 2 本と焼酎 (25 度) 2 合	13.5 ± 8.3	13.8 ± 8.2	17.6 ± 13.6	p<0.001

表 12 . 飲酒後に運転してはいけない時間 (女性)

	時間 ± 標準偏差			1 元配置分散分析
	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	
総数 (人)	19	14	30	
ビール中ビン 1 本 (または日本酒 1 合)	9.8 ± 7.5	8.1 ± 7.7	9.1 ± 7.7	p=0.805
総数 (人)	20	14	31	
ビール中ビン 3 本 (または日本酒 3 合)	16.1 ± 10.7	11.2 ± 8.0	13.6 ± 8.8	p=0.317
総数 (人)	19	14	31	
焼酎 (25 度) 3 合	18.7 ± 14.5	11.6 ± 7.9	16.4 ± 10.6	p=0.209
総数 (人)	19	14	31	
ビール中ビン 2 本と焼酎 (25 度) 2 合	21.5 ± 16.7	13.6 ± 8.8	17.4 ± 10.4	p=0.194

・考察

1日平均飲酒量が6ドリンク（1ドリンクは、純アルコールで12.5mLまたは10g）以上の飲酒者の割合は、男性においては、「飲酒運転あり+検挙あり」群が37.8%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が21.8%、「飲酒運転なし」群が9.0%であり、女性においては、「飲酒運転あり+検挙あり」群が30.0%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が28.6%、「飲酒運転なし」群が3.1%であった。

飲酒日の1日平均飲酒量が6ドリンク以上の飲酒者（本報告書では多量飲酒者と定義する）の割合は、男性においては「飲酒運転あり+検挙あり」群が66.3%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が54.4%、「飲酒運転なし」群が24.8%であり、2003年の全国調査⁵⁾による一般成人の男性12.7%と比較して高い結果であった。同様に女性においても、「飲酒運転あり+検挙あり」群が50.0%、「飲酒運転あり+検挙なし」群が50.0%、「飲酒運転なし」群が25.0%であり、2003年の全国調査⁵⁾による一般成人の女性3.4%と比較して高い結果であった。今回の調査結果と、2003年の全国調査⁵⁾との比較を、男女別に表13、表14に示す。

表13．多量飲酒者割合の比較（男性）

	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	2003年 全国調査
多量飲酒者の割合（％）	66.3	54.4	24.8	12.7

表14．多量飲酒者割合の比較（女性）

	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	2003年 全国調査
多量飲酒者の割合（％）	50	50	25	3.4

加えて、最大飲酒日の1日飲酒量も飲酒運転者に非常に高い結果であった。

以上のことから、多量飲酒や飲酒日の飲酒量の多さが飲酒運転の危険因子になっていることが示唆される。

3種類の飲酒スクリーニングテストより、飲酒運転経験者（特に検挙者）は飲酒運転非経験者よりも、アルコール依存症およびアルコールの危険な使用が疑われる者の割合が高かった。2003年の全国調査⁵⁾では、一般成人のうちAUDIT 20点以上の割合は男性1.6% 女性0.2%であり、AUDIT 15点以上の割合は男性5.1% 女性0.7%であり、CAGEが2点以上の割合は男性6.8% 女性1.3%、KASTが2点以上の割合は男性7.1% 女性1.3%であったが、今回の調査結果と、2003年の全国調査⁵⁾との比較を、男女別に表15、表16に示す。

表 15 . アルコール依存症の割合の比較 (男性) (%)

スクリーニングテスト	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	2003 年 全国調査
AUDIT (20 点以上)	23.8	12.4	3.0	1.6
AUDIT (15 点以上)	47.2	25.9	6.5	5.1
CAGE	36.9	18.1	7.0	6.8
KAST	39.5	20.1	6.0	7.1

表 16 . アルコール依存症の割合の比較 (女性) (%)

スクリーニングテスト	飲酒運転あり + 検挙あり	飲酒運転あり + 検挙なし	飲酒運転なし	2003 年 全国調査
AUDIT (20 点以上)	22.2	23.1	6.3	0.2
AUDIT (15 点以上)	38.9	23.1	6.3	0.7
CAGE	45.0	35.7	9.4	1.3
KAST	36.8	23.1	12.5	1.3

今回の調査結果での飲酒運転検挙者におけるアルコール依存症疑いの人の割合は、2003 年の全国調査による一般人口と比べると、オッズ比で、AUDIT(20 点以上)では男性 19.2 倍 女性 142.4 倍、AUDIT(15 点以上)では男性 16.6 倍 女性 90.3 倍、CAGE では男性 8.0 倍 女性 62.2 倍、KAST では男性 8.5 倍 女性 44.2 倍高かった。また飲酒運転はあるが検挙のない者においても、アルコール依存症疑いの割合は一般人口に比べて、AUDIT(20 点以上)では男性 8.7 倍 女性 149.9 倍、AUDIT(15 点以上)では男性 6.5 倍 女性 149.9 倍、CAGE では男性 3.0 倍 女性 42.1 倍、KAST では男性 3.3 倍 女性 22.8 倍高かった。これらを表 17 にまとめる。

表 17 . 飲酒運転者におけるアルコール依存症の割合のオッズ比

	検挙あり (男性)	検挙なし (男性)	検挙あり (女性)	検挙なし (女性)
AUDIT (20 点以上)	19.2	8.7	142.4	149.9
AUDIT (15 点以上)	16.6	6.5	90.3	149.9
CAGE	8.0	3.0	62.1	42.2
KAST	8.5	3.3	44.2	22.8

上記から常習飲酒運転の背景には、アルコール依存症やアルコールの危険な使用が大きく存在するといえるだろう。

飲酒運転した理由の結果からは、検挙者は非検挙者に比べて飲酒運転をする理由が少な

いことがわかった。裏をかえせば、検挙者は理由が少ないにもかかわらず飲酒運転をしていた、すなわち、非検挙者に比べて、飲酒運転が悪いとわかっていながら飲酒運転をしていたということであり、より確信犯であったといえるだろう。

飲酒後に運転をしてはいけない時間の結果から、男性において、飲酒運転経験者は飲酒運転非経験者に比べて、飲酒後に運転してはいけない時間を短く答える傾向がみられ、飲酒に関する知識不足が飲酒運転の危険因子である可能性が示唆された。女性において有意差がみられなかったのは、母数が少なかったためと考えられる。

・ 結論

運転免許取消処分講習参加者の中で、飲酒運転またはそれによる検挙経験者は常習飲酒運転者と考えられ、これらの多くは多量飲酒者と推定された。また、アルコール依存症の疑われる者の割合も一般人口に比べて非常に高かった。さらに飲酒と運転に関する正しい知識が普及していないことが示唆された。

本調査より今後の課題として、飲酒と運転に関する適切な教育の必要性、常習飲酒運転者の多量飲酒・依存への対応、国レベルでの多面的な調査・研究の必要性、が挙げられる。

・ 参考文献

- 1) Anderson P, Gual A, Colom J: Alcohol and Primary Health Care: Clinical Guidelines on Identification and Brief Interventions. Department of Health of the Government of Catalonia, Barcelona, 2005.
- 2) Duane F. Reinert, John P. Allen: The Alcohol Use Disorders Identification Test: An Update of Research Findings. Alcohol Clin Exp Res, 31;185-199, 2007.
- 3) 北村俊則：精神症状測定の理論と実際，海鳴社，東京，1988．
- 4) Mayfield DG, McLeod G, Hall P: The CAGE questionnaire: validation of a new alcoholism screening instrument. Am J Psychiatry 131: 1121-1123, 1974.
- 5) 尾崎米厚，松下幸生，白坂知信，廣尚典，樋口進：わが国の成人飲酒行動およびアルコール症に関する全国調査．日本アルコール・薬物医学会雑誌，40；455-470，2005．
- 6) Saunders JB, Aasland OG: WHO Collaborative Project on Identification and Treatment of Persons with Harmful Alcohol Consumption, Report on Phase 1, Development of a Screening Instrument (MNH/DAT/86.3), World Health Organization, Geneva, 1987.
- 7) Saito S, Ikegami N: KAST (Kurihama Alcoholism Screening Test) and its applications. 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 13: 229-235, 1978.